



2020年 8月 26日

子ども一人一人を大切にす る 感染症にも強い 少人数学級を求める請願書

岩倉市議会議長 梅村 均 殿

請願団体 新日本婦人の会岩倉支部

代表者 大山 節子

住所 岩倉市

紹介議員

堀 巖

柳谷 規子

木村 冬樹

【請願趣旨】

新型コロナウイルス感染拡大のなかで、子どもたちはかつてない不安を抱え、学級の格差も深刻になっています。40人学級では、子どもの感染を防ぐための身体的距離もとれません。これから必要となる子どもたちのケアや、学習の遅れへの対応も、40人学級では難しいと思います。分散登校中の授業で、一人一人の顔がよく見えることや、授業がよくわかることを、先生も子どもも実感しました。全国知事会会長・全国市長会会長・全国町村会会長も少人数学級の実施を求めています。早急に30人学級、その後すみやかに20人程度の学級への移行を実現してください。

文部科学省は、学習の遅れは2～3年かけて取り戻せばいい、心のケアを大切にするという方針を示しました。しかし、多くの学校が土曜日や夏休みも授業をしたり、行事を削ったりしています。楽しみな行事も大切に、子どもたちに仲間との共同の学びと豊かな学校生活を保障するよう、必要な措置を十分にとってください。

【請願項目】

- 1 安心・安全な少人数学級をすみやかに実施してください
- 2 授業を詰め込みすぎず、仲間との学びと豊かな学校生活を保障してください
- 3 少人数学級実現のための財政的支援を求める意見書を国に上げてください

新しい時代の学習環境として少人数学級の実現を求める意見書案

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、学校においても密集・密接・密閉のいわゆる三密を避ける環境整備が求められる新しい時代になりました。また休校による影響などで様々な困難を抱えた子どもたちにより丁寧に寄り添う教育活動で、子どもたちの学校生活にゆとりを取り戻すことが重要になっています。

一方で、公立小・中学校の普通教室の平均面積は64㎡であり、現在の40人学級では、感染症予防のために児童・生徒間の十分な距離をとることが困難となっており、学校現場の大きな課題になっています。

すし詰め学級の解消を求める努力が長年続けられた結果、学級編成が見直され、平成3年には現在の40人学級が実現されました。しかし、平成23年に小学校1年生が1学級35人とされただけで少人数学級への環境整備は進んでいません。

今後、感染の拡大があっても必要な教育活動を継続して、子どもたちの学びを保障するためには、少人数学級により、児童・生徒間の十分な距離を保つとともに、必要な教員を確保することが欠かせません。

よって、岩倉市議会は、国会及び政府に対し、感染予防と豊かな学校生活のために、国の責任と負担で、必要な教職員の配置と学校医施設整備を進めて、少人数学級を実現するよう強く要望します。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

令和2年 月 日

議会

議長

内閣総理大臣・財務大臣・文部科学大臣・総務大臣 宛